海軍少將正五位勲三等山内萬壽治
以下九名叙勲ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク
明治三十六年三月二十日
内閣總理大臣伯爵桂太郎

内閣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

勲一五八

明治三十六年三月十八日

賞勲局總裁

内閣總理大臣

海軍少將正五位勲三等山内萬壽治以下九名叙勲ノ儀別紙ノ通議定候條御沙汰案ヲ具シ此段允裁ヲ仰ク

御沙汰案

海軍少將正五位勲三等山内萬壽治

多年心ヲ製鋼術ニ潜メ拮据経營遂ニ海軍兵器ノ大部ヲ製造供辨スルニ至リ且呉式尾栓ヲ創製シ海軍兵器ニ裨益ヲ與フルコト尠カラス其功績顕著ナリトス依テ勲二等旭日重光章ヲ授ケ賜フ

海軍造兵大技士正七位勲六等摩博士有坂鉁蔵

五十口径十二糎速射砲尾栓ヲ創製シ且呉式尾栓ノ肇造ニ與テ力アリ其功績顕著ナリトス依テ勲五等雙光旭日章ヲ授ケ賜フ

海軍技師正七位勲六等中島正賢

徹甲彈煙焔法ヲ發明シ且之ニ適スル煖爐並ニ水力鍛煉機附屬大煖爐用瓦斯發生器ヲ創製ス其功績顕著ナリトス依テ單光旭日章ヲ授ケ賜フ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍技師正七位　長谷部小三郎

徹甲弾合金法ヲ發明シ旦製鋼用白色坩堝ヲ創製ス其功績顕著ナリトス依テ勲六等單光旭日章ヲ授ケ賜フ

海軍技手　辻　茂吉

海軍技手勲八等　大草鑑之助

（各通）

造砲用各種ノ工具器類ヲ創製シ旦鋼線纏絡式ノ砲身製造ノ装置ニ改良ヲ加フ其功績顕著ナリトス依テ勲八等白色桐葉章ヲ授ケ賜フ

海軍技手　茂住清次郎

内閣

鋳鋼用模型ヲ改良シ砂土混淆法ヲ發明シ製鋼事業ヲシテ全カラシム其功績顕著ナリトス依テ勲八等白色桐葉章ヲ授ケ賜フ

海軍技手　富田群太郎

シーメンス爐ヲ以テ砲身用ノ大鋼塊及ヒ各種ノ鋼材料ヲ製造シ得ルニ至ラシメ旦製鋼用白色坩堝ノ肇造ニ與テカアリ其功績顕著ナリトス依テ勲八等白色桐葉章ヲ授ケ賜フ

海軍技手　道家榮治郎

煙焠装置ヲ創製シ煙焠用水ノ温度ヲ調和ス

ルノ方法ヲ案出シ鋼彈ニ任意ノ煙焔ヲ施スコトヲ
得ルニ至ラシム其功績顯著ナリトス依テ勲八等
白色桐葉章ヲ授ケ賜フ

内閣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

賞勲議案 八 號

三十六年 三月十三日

賞勲局總裁 [illegible]

書記官 [illegible] 藤井

議定官 武揚

可

否

海軍少將正五位勲三等山内萬壽治以下九名叙勲議案

右海軍造兵事業ニ功績アル旨ヲ以テ海軍大臣叙勲ヲ奏請セリ依テ審按スルニ

賞勲局

海軍少將山内萬壽治ハ夙ニ海軍造兵事業擴張ニ關スル調査及準備ニ盡瘁シ二十八年七月假設呉兵器製造所長トナリ次テ仮呉兵器製造所長ヲ經テ呉海軍造兵廠長ニ補セラル當時事業創始ニ屬シ諸般ノ設備完カラス職員亦概ネ製鋼事業ニ經驗ヲ缺キ作業上困難ナルニ拘ワラス勵精能ク其歩ヲ進メ今ヤ殆ント海軍兵器ノ全部ヲ供辯スルヲ得ルカ如キ盛況ニ至レリ殊ニ製鋼事業ハ列國之ヲ秘シテ其妙訣ヲ窺知スヘカラサ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ルヲ以テ苦辛経營遂ニ自得スル所アリ之ヲ我
造兵事業上ニ現實セシムルニ至リ又常ニ兵器
ノ改良ヲ圖リ最モ效果アル昊式尾栓ヲ發明シ
以テ三十二拇砲ニ應用スルニ至リ久ル等其海軍
造兵事業ニ裨益スル頗ル多シ又
海軍造兵大技士有坂鉛藏ハ
仮設昊兵器製造所創立以来其職員トナリ勵精
造兵事業ニ從事シ諸種ノ速射砲ヲ創製シ
殊ニ五十口経十二斤速射砲ノ尾栓ヲ發明シ及
昊式尾栓ノ發明ニ與テ力アリ此尾栓ハ簡卓

賞勳局

堅牢且ツ安全ニシテ又開閉容易ナルヲ以テ勞力
ヲ減シ發射速度ヲ增シ砲力ヲ熾ナラシム又
海軍技師中島正賢全長谷部小三郎ノ二名ハ
多年昊海軍造兵廠製鋼鍛煉工場主任ノ職
ヲ奉シ勵精能ク創始ノ事業ニ盡瘁シ終ニ現
時造兵工業ニ主用セラルル幾多特種ノ鋼鐵材料
ヲ製造スルニ至リ殊ニ中島正賢ハ列國ノ秘スル徹
甲彈煙焙法及之ニ要スル特種ノ煖爐竝四千噸
水力鍛煉機付屬大煖爐用瓦斯發生器ヲ
發明シ長谷部小三郎ハ徹甲彈ノ合金法竝製鋼

用白色甘堝ヲ發明シタリ又
海軍技手辻茂吉仝大草鑑之助ノ二名ハ
多年呉海軍造兵廠ニ勤務シ造砲工場附トナリ
勵精能ク創始ノ事業ヲ補ケテ造砲用種種ノ工
具器具類ヲ創製シ殊ニ鋼線纏絡式ノ砲身
ヲ造リル裝置ヲ改良シ又呉式尾栓ノ製造ニ貢献
スル勲カラス又
海軍技手茂住清次郎仝富田群太郎ノ二名ハ
多年呉海軍造兵廠ニ勤務シ製鋼工場附トナリ
勵精能ク創始ノ事業ヲ補助シ殊ニ茂住清次
郎ハ鑄鋼用模型ノ改良及砂土混淆法ヲ發明シ
賞勲
富田群太郎ハ砲身用大鋼塊ヲ鑄造シ幾多ノ鋼
鐵材料ヲ製造シ得ルニ至ラシメ且ツ白色甘堝ノ創
製ニ與テ力アリ又
海軍技手道家榮治郎ハ
多年呉海軍造兵廠ニ勤務シ鍛煉工場附トナリ
拮据勵精彈丸煙焠ニ要スル諸般ノ工具裝置ヲ
考按シ煙焠用水ノ溫度調和法ヲ發明シ又特
稈ノ煖爐ヲ新設シテ任意ニ鋼彈ヲ煙焠スルヲ
得セシメ其他徹甲彈煙焠法ノ發明ニカヲ與ヘ又

藥莢搾出用ノ鋼材ヲ鍛煉シ且ツ之ヲ煙焠スル法ヲ發見スル等

何レモ其功績顕著ナリト確認ス則チ紋賜ノ勲等加授ノ勲章ヲ擬議スル左ノ如シ

紋勲三等授瑞寶光章　海軍將官位勲三等　山内萬壽治

紋勲五等授瑞光章　海軍造兵大技士正七位勲六等壹博士　有坂鉛藏

授瑞光旭日章　海軍技師正七位勲六等　中島正賢

紋勲六等授瑞光章　海軍技師正七位　長谷部小三郎

紋勲八等授白色桐葉章　海軍技手　辻茂吉

授白色桐葉章　海軍技手勲八等　大草鑑之助

紋勲八等授白色桐葉章　海軍技手　茂住清次郎

紋勲八等授白色桐葉章　仝　富田群太郎

紋勲八等授白色桐葉章　仝　道家榮治郎

賞勲局

海秘第四十一號

海軍大將正五位勲三等山内萬壽治

右者明治二十七八年ノ交我海軍造兵事業擴張ノ議アルヤ之レカ諸調査及準備施設等ニ盡瘁シ二十八年七月假設兵器製造所ヲ置カルルニ至リ其所長ニ補セラレ二十九年四月一日假兵器製造所ト改稱セラルルヤ引續キ該所長タリ尋テ三十年五月二十五日呉海軍造兵廠ト為ルヤ同廠長ニ補セラレ以テ現今ニ至レリ抑モ前述兵器製造所ノ經營ハ日清戰役中軍事多端ノ際ニ起リタルモノニシテ當時諸般創始ニ屬シ工場ノ設備未タ完カラス機関亦足ラス作業上ノ困難名狀ス可ラサルモノアリ加フルニ部下職員概ネ製鋼事業ニ經驗ヲ缺クノ實際ナリシニ拘ラス萬壽治儀挺身以テ責任ノ地位ニ立チ堅忍不拔ノ精神ト細心勵精ノ動作トヲ以テ率先事ニ當リ懇到部下ヲ教導シ千辛萬難ヲ排シ著々其歩ヲ進メ起業以來數年ヲ出テサルニ今ヤ招ント海軍兵器ノ全部ヲ製造供辯スルヲ得ルカ如キ盛大ノ域ニ達セリ而シテ製鋼事業タルヤ列國共ニ極メテ秘密ヲ保チ到底其ノ製造ノ妙訣ヲ窺知スヘカラス然ルニ本人儀日夜凝心工夫慘憺遂ニ自得スル所アリ之ヲ我造兵事業上ニ現實セシムルニ至リ又タ斷ヘス諸兵器ニ對スル改良進歩ヲ圖ルノ熱誠ハ遂ニ最モ効果アル呉式尾栓ヲ発明シ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

以テ三十二拇砲ニ應用スルニ至レリ之ヲ要スルニ
我海軍進兵事業ノ基礎ヲ確立シ製鋼ノ新
智ヲ闡明シテ國家ノ富源ニ寄與シ兵器ノ改
良ヲ圖リテ其獨立自給ニ資スル等其功績洵
トニ偉大ナリトス依テ勲二等ニ敘シ旭日重光
章ヲ下賜セラレ度及上奏候也

明治三十六年三月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

海軍

81

宮内省 図書寮

明治三十六年 三月 七日

海軍造兵大技士正七位勲六等工學博士有坂鉛藏

吳假設兵器製造所創立ノ際ヨリ其職員トナリ爾來拮据勉勵熱心造兵事業ニ從事シ諸種ノ速射砲ヲ創製シ殊ニ五十口徑十二糎速射砲ノ尾栓ヲ發明シ及吳式尾栓ノ發明ニ與テ大ニ力アリ其尾栓タルヤ頗ル堅牢ニシテ製造極メテ簡單隨テ經費少ナク且安全等ノ點ニ於テ他ニ其比ヲ見ス加之開閉容易ニシテ勞力ヲ減シ發射速度ヲ增シ砲力ヲ熾ナラシメ我海軍ニ莫大ナル裨益ヲ與ヘタルモノニシテ其功績顯著ナル者ト認ム依テ勲五等ニ叙シ雙光旭日章ヲ下賜セラレ度及

上奏候也

明治三十六年三月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

海軍

明治三十六年 三月 七日

(宮田)

82

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍技師正七位勲六等中島正賢

多年呉海軍造兵廠製鋼鍛煉工場主任ノ職ヲ奉シ其工場ノ設備未タ全カラス職亦悉ク無經驗ナルノ時ヨリ絶ヘス自ラ率先シテ事ニ當リ拮据勉勵不倦不怠千辛萬難ヲ排シ終ニ現時造兵工業ニ主用セラル、幾多特種ノ鋼鐵材料ノ製造スルニ至リ殊ニ列國共ニ最モ極秘トスル所ノ徹甲彈煙焰法及之ニ要スル特種ノ煖爐並四千噸水力鍛煉機付屬大煖爐用瓦斯發生器ヲ發明シタルハ實ニ我海軍ニ莫大ナル裨益ヲ與ヘタルモノニシテ其功績顯著ナルモノト認ム依テ單光旭日章ヲ下賜セラレ度及上奏候也

明治三十六年三月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内閣書記官室 記録 六一

海秘第四十一号ノ四

海軍技師正七位長谷部小三郎

多年呉海軍造兵廠製鋼鑄造工場主任ノ職ヲ奉シ其工場ノ設備未ダ全カラス職工亦悉ク無經驗ナルノ時ヨリ絶ヘス自ラ率先シテ事ニ當リ拮据奮勵不倦不怠千辛萬難ヲ排シ終ニ現時造兵工業ニ主用セラルヘキ幾多特種ノ鋼鐵材料ヲ製造スルニ至リ特ニ列國共ニ最モ極秘トスル所ノ徹甲彈ノ合金法並ニ製鋼用白色坩堝ヲ發明シタルハ實ニ海軍ニ於ケル大ナル裨益ヲ與ヘタルモノニシテ其功績顯著ナルモノト認ム依テ勲六等ニ敍シ單光旭日章ヲ下賜セラレ度及

上奏候也

明治三十六年三月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

めくれず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍技手辻茂吉

多年呉海軍造兵廠ニ勤務シ造砲工場附トナリ其工場ノ設備未タ全カラス職工亦無経験ナルノ時ニ於テ自ラ進ンテ事ニ當リ幾多ノ困難ヲ嘗メ未熟ノ職工ヲ指導シ刻苦勉勵終ニ造砲用種々ノ工具器具類ヲ創製シ以テ造砲上裨益スル所多ク殊ニ鋼線纏絡式ノ砲身ヲ造クルノ裝置ヲ改良シ又呉式尾栓ノ製造ニ貢献スル所大ニシテ其功績顕著ナルモノト認ムル依テ勲八等ニ敍シ白色桐葉章ヲ下賜セラレ度及上奏候也

明治三十六年三月七日

海軍大臣男爵山本権兵衛

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

四十一ノ六

海軍技手勲八等大草鑑之助

多年呉海軍造兵廠ニ勤務シ造砲工場附トナリ其工場ノ設備未タ全カラス職工亦無經驗ナルノ時ニ於テ自ラ進ンテ事ニ當リ幾多ノ困難ヲ嘗メ未熟ノ職工ヲ指導シ刻苦勉勵終ニ造砲用種々ノ工具器具類ヲ創製シ以テ造砲上裨益スル所多ク殊ニ鋼線纏絡式ノ砲身ヲ造クルノ裝置ヲ改良シ又呉式尾栓ノ製造ニ貢献スル所大ニシテ其功績顯著ナル者ト認ム依テ白色桐葉章ヲ下賜セラレ度及上奏候也

明治三十六年三月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

海軍技手茂住清次郎

多年呉海軍造兵廠ニ勤務シ製鋼工場附ト為リ其工場ノ設備未タ全カラス職工亦無經驗ナルノ時ニ於テ自ラ進ンテ事ニ當リ幾多ノ困難ノ常ノ時ニ或ハ熱火ノ間ニ在リテ身命ヲ顧ミスレテ以テ未熟ノ職工ヲ教導シ刻苦勉勵殊ニ鑄鋼用模型ノ改良及砂土混淆法ヲ發明シ製鋼事業ヲ全カラシメ其功績顯著ナルモノト認ム依テ勲八等ニ敍シ白色桐葉章ヲ下賜セラレ度及上奏候也

明治三十六年三月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

海軍技手富田群太郎

多年呉海軍造兵廠ニ勤務シ製鋼工場附トナリ其工場ノ設備未タ全カラス職工亦無經驗ナルノ時ニ於テ自ラ進ンテ職工ヲ指導シ萬難ヲ排シテ刻苦勉勵コレーメンス爐ヲ以テ砲身用大鋼塊ヲ鑄造シコクロームニッケルクローム鋼ニッケルクローム鋼等所要ノ材料ヲ製造シ得ルニ至ラシメ且ツ白色坩堝ヲ創製スルニ與テ最モ力アリ其功績顯著ナルモノト認ムルニ依テ勲八等ニ敘シ白色桐葉章ヲ下賜セラレ度及上奏候也

明治三十六年三月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

海秘第四十一號ノ九

海軍技手道家榮治郎

多年呉海軍造兵廠ニ勤務シ鍛煉工場附トナリ其工場ニハ爆焔焙ノ装置未タ備ラス彈丸ノ爆焔焙ノ如キハ一人モ知ルモノナキノ時ニ於テ粉骨碎身自ラ指導シ諸般ノ工具装置ヲ考按シ且ツ本邦ノ季候ニ應シ爆焔焙用ノ水ノ温度ヲ調和スルノ方法ヲ發明シ又特種ノ焙爐ヲモ新設シ終ニ大小ノ鋼彈ニ任意ノ爆焔焙ヲ施スコトヲ得ルニ至ラシメ且ツクローム鋼ノ徹甲彈ヲ爆焔焙スルノ法ヲ發明スルニ與テ力アリ又藥莢搾出用特種ノ鋼材ヲ鍛煉シ且ツ之ヲ爆焔焙スル法ヲ發見スル等製鋼上貢献スル所多大ニシテ其功績顯著ナリト認ム依テ勲八等ニ敘シ白色桐葉章ヲ下賜セラレ度及上奏候也

明治三十六年三月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

世六三七

履歴書

廣島縣平民

海軍少將正五位勲三等山内萬壽治

萬延元年庚申三月廿九日生

明治六年十月廿七日　海軍兵學寮入寮

仝　七年十月七日　本科ニ入ル

仝　十年七月十三日　終期試驗相濟免狀授與

仝　十一年一月十四日　乾行艦甚誓古乘組申付候事　海軍兵學校

六月十八日　金剛艦（轉乘申付候事　仝

八月廿八日　浦塩斯德（航行十月七日皈着

仝　十二年二月六日　筑波艦（轉乘申付候事　仝

三月五日　新嘉坡ヲ經テ「ペナン」（航海

海軍

六月廿三日　皈朝

七月三日　筑波艦甚誓古乘組差免皈校申付候事　仝

仝　八日　卒業　海軍省

八月九日　任海軍少尉補

九月十一日　兵學校試驗規則第六條ニ依リ尚一期

在校申付候事

仝　十三年二月十三日　在校差免候事　仝

仝　十七日　乾行艦乘組申付候事　仝

十二月廿七日　一等月俸被下候事　仝

仝　十四年一月十三日　摂津艦乘組申付候事　仝

四月十四日　兵學校兼勤申付候事　仝

仝　十五年九月八日　任海軍少尉　太政官

十月廿一日　敍正八位　仝

めくれず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

今十六年十月十日　一等月俸被下候事　海軍省
今十七年一月廿三日　摂津艦乗組並ニ兵學校兼務被差免候事　同
今　日　補兵學校教授　同
二月廿五日　任海軍中尉　太政官
三月廿九日　敘従七位　同
四月廿一日　免本職　海軍省
今　日　軍事部出勤被差免候事　同
今　日　御用有之佛獨両國ヘ被差遣候事　太政官
今　日　出発
今　廿七日　軍事部出勤被差免候事　海軍省
十月十四日　兵器局出勤軍事部兼務被仰付候事　同
今　日
今十九年一月廿九日　省中従前ノ各局ヲ廃ス
今　日　兵器製造所勤務被仰付候事

海軍

但獨逸國出張如故　海軍省
一月廿一日　墺太利亜皇帝ノ進可ヲ得今國海軍尉官ノ資格ヲ以テ編入セラル　同
七月八日　賜一等俸
今十二日　勅令第五十二號武官々等改正
今十三日　有令五十九號中尉ヲ大尉ニ奏任五等ト被定
九月十八日　海軍兵器製造所勤務被免参謀本部海軍部出勤仕被仰付　同
今三十年十二月廿四日　陞敘奏任官四等　内閣
今三十年五月二日　勅令第百號参謀本部條例被廃　十四日官報
今十四日　海軍参謀本部出仕被仰付　海軍省
今廿一日　海軍参謀本部出仕被免　同
今三十三年一月十七日　敘正七位　宮内省

十月廿八日　少佐補欠トシテ造兵監督官兼務被仰付　海軍省
仝　日　佛國ニ於テ製造ノ軍艦松島回航委員事務取扱委員被仰付
但第二局長ノ指揮ヲ受クヘシ
仝　十月四日歸朝
仝　廿四年五月廿六日　歸朝被仰付
勅令第八十號兼職消滅
七月廿三日　勅令第八十號兼職消滅
八月廿日　佛國ニ於テ製造ノ軍艦回航事務取扱委員被免
十月五日　歐洲出張中ノ殘務取扱被仰付　仝
仝　廿三日　製鋼所設立案取扱委員被仰付　仝
仝　三十日　欧州出張中ノ殘務取扱被免　仝
仝　日　海軍造兵廠檢査科長心得海軍技術會議議員兼務被仰付　仝

海軍

十月十六日　勅令二章五號官職等級表公布大尉ハ奏任七等ト被定
仝廿五年一月十九日　給一級俸　海軍省
二月九日　造兵廠設立取調委員被仰付
但第二局長ノ指揮ヲ受クヘシ
四月十六日　海軍技手下瀬雅允發明爆裂藥試驗委員ヲ命ス但技術會議議長ノ指揮ヲ受クヘシ　仝
仝　十九日　香港出張被仰付　仝廿日出發、五月十六日歸朝　仝
九月十二日　士官及生徒下士卒教育法取調委員被仰付　仝
十月十二日　勅令九十六號大尉ハ高等官六等トナル　仝廿日施行
十月十七日　敍勲五等授雙光旭日章　賞勲局
仝　廿二日　四十七ミリ自働速射砲及同心退却砲架改良上拮据勉励多年意匠ヲ凝シ學

理研究上頗ル困苦ヲ嘗メ竟ニ有益簡易ナル閉鎖機及砲架ヲ製造シ海軍用トシテ山内閉鎖機及山内砲架ト称スルニ至リ殊ニ我國造砲術上ニ於テ一大面目ヲ典ヘ効績顕著ナルモノトス依テ為其賞金七百圓下賜

今廿六年二月一日　海軍省
海軍技手下瀬雅允発明爆裂藥試験委員被免

四月二十日　士官及生徒下士卒教育法取調委員被免　同
六月二十日　造兵監督兼務被仰付　同
今日　英國出張被仰付　七月十四日出発　同
七月四日　下瀬雅允発明爆裂藥試験委員奉職中八種々ノ困難ト危険トヲ顧ミス拮据奮励能ク其目的ヲ達スルニ至ラシメタル段其勞洵ニ勘ナカラス依テ之ヲ褒賞ス

海軍

七月四日　其官英國出張ノ途次米國ヲ経過シ華盛頓府ニ於テ甲鐵戰艦ヘ備付ケヘキ十二吋砲身材料ノ儀ニ付調査ヲ為シ及同材料試験法等ヲ調査スヘシ　海軍省
十二月廿日　任海軍少技監　内閣
今日　補海軍造兵廠検査科長兼造兵監督官　海軍省
今日　海軍技術會議議員　同
今日　英國出張被仰付　宮内省
今廿七年二月廿八日　鈴從六位　海軍省
六月六日　歸朝被仰付　同
今廿三日　海軍造兵廠設立取調委員ヲ命ス
但軍務局長ノ指揮ヲ受クヘシ

七月廿五日　清國ト開戰
八月三日　英國ヨリ歸朝　英國出張中監督事
九月廿五日　曩ニ造兵監督官トシテ　造兵器械撰定ニ要スル
務ノ餘暇ヲ以テ　海軍省
業務ニ從事シ特別勉励候條慰勞トシテ
金貳百圓ヲ下賜　仝

十月七日　英國ヘ出張被仰付
仝十七日　出張被仰付置候處被免歐州ヘ　仝
仝廿八日出發　仝
仝
十月二日　免本職並兼職　仝
仝廿八年七月七日　歐州ヘ出張ノ末歸朝　賞勲局
仝八日　補假吳兵器製造所長　仝
十月十二日　敍勲四等授旭日小綬章

海軍

十月十二日　明治廿七八年戰役ノ功ニ依リ勲四等旭日小綬
章及年金百三十五圓ヲ授ケ賜フ　賞勲局
仝十八日　廿七八年ノ役從軍記章授與　仝
仝廿九年四月一日　海軍武官ノ階級改正　勅令第三十九號
仝日　任海軍造兵少監　內閣
仝日　勅令第六十號假吳兵器製造所條例制定
仝日　補假吳製造所長　海軍省
仝三十年四月吾　兼補海軍技術會議議員　仝
五月廿五日　勅令第三十號海軍造兵廠條例制定　假吳兵器製造所條例廢止
仝月　吳海軍造兵廠長心得被仰付　海軍技術會議議員如故
九月四日　製鑄所創立事務ヲ囑託ス　仝
十月一日　任海軍造兵中監　農商務省
仝三十一年二月十八日　任海軍大佐　內閣

今　日　補吳造兵廠長兼海軍技術會議員　海軍省
今十九日　敘正六位　宮内省
三月廿二日　假吳兵器製造所創立ニ際シ格別勉励ニ付
金四百圓ヲ賞與ス
四月十六日　敘位五位　海軍省
今三十二年二月十日　海軍懸賞射撃委員ヲ命ス　五月一日事務結了　宮内省
今　廿二日　造兵工場設立調査委員ヲ命ス　海軍省
四月廿五日　兼補造兵監督官　今
今　日　歐米各國出張被仰付　今
五月廿四日　出発　内閣
十月三日　歸朝被仰付　十月廿四日歸京　今
十二月四日　免兼造兵監督官　海軍省
今三十三年五月二日　海軍懸賞射撃委員ヲ命ス　六月三日事務結了　今

海軍

六月十一日　明治三十三年清國事変内地服務加算　海軍省
九月廿五日　賜一級俸　今
十二月六日　御用有之福岡縣下製鉛所ヘ出張ヲ命ス　内閣
今　廿四日　海軍省所管事務政府委員被仰付　海軍省
今三十四年四月三日　艦砲懸賞射撃委員ヲ命ス　六月三日事務結了
五月廿日　廣島縣ヘ轉籍
十二月九日　海軍省所管事務政府委員被仰付　内閣
今　廿八日　敘勲三等授旭日章　賞勲局
今　日　明治三十三年清國事変ニ於ケル功ニ依リ勲三等旭日中綬章及金七百八十圓ヲ授ケ賜フ
今三十五年三月六日　兼補造兵監督官　今
今　日　歐米各國出張被仰付　今廿一日出発　海軍省
内閣

五月廿六日　任海軍少將
六月十日　歸朝被仰付　八月十日歸朝
今廿四日　製鋼所創立事務囑託ヲ解ク
九月十三日　免兼造兵監督官
十月廿日　敘正五位

仝　農商務省
仝　内閣
宮内省

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

履歴書

東京府士族

海軍造兵大技士正七位勲六等工學博士有坂鉛藏

明治元戊辰年一月十一日生

明治二十年 九月 海軍省

一 帝國大學工科大學ヘ入學

今 今 三十日

一 海軍技術學生ヲ命ス 但造兵學科專科

今 二十三年 七月 十日

一 工科大學造兵學科卒業

今 三十一日

一 造兵學修業トシテ佛國ヘ留學ヲ命ス 海軍

但 三等學費ヲ給ス 期限ハ該國到着ヨリ向三ヶ年トス

今 八月三十一日

一 佛國ヘ向ケ出發 十月十六日巴里着

今 二十四年一月

一 ホッチキス速射砲製造所ニ入ル

今 廿五年 一月三十日

一 日本海軍技術學生 有坂鉛藏氏カ實地研究ノ爲メ

一ヶ年前ヨリ我工場製圖部ニ入リ其勉學中自己ノ學

業ノ進歩並ニ我等ノ爲メニ作爲セシ事業ニ於テ

我等實ニ賞奬ノ言ヲ呈スルノ外無キヲ證明ス

ホッチキス製砲會社

支配長 フワバルジュー

今 ケルチル

97

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍省

仝　五月二日

一自今二等學資ヲ給ス

仝　二十六年五月一日

一自今一等學資ヲ給ス

仝　八月廿三日

一千八百九十二年一月大日本特命全權公使野村君及本
帝國海軍大尉吉松君ノ照會ニ由リフオルジエシヤーケエードラ
メヂテラテー會社砲兵部長カヲーヱ氏ハアーブル砲兵工場内
ニ於テ同氏式火砲製作上ノ研究及ニ實驗ヲ爲スヿノ義
諾ヲ大日本海軍技術學生有坂氏ニ與ヘタリ
カヲーヱ氏ハアーブルニ於ケル日本政府派遣ノ將校ト
常ニ懇篤ナルヲ以テ有坂氏ノ諸質問ニ對シ常ニ懇
ロナル回答ヲ吝マザリシ而シテ當會社ニ於テ大半秘

海軍

密ニ屬スル研究材料ヲ同氏ニ與ヘタルヲ以テ同氏ハ其研究
ノ目的ニ於テ最モ必用ナル智識ヲ得ラレタリ
又二十ケ月間滞在中有坂氏ハ非常ナル熱心ヲ以テ大
砲製作上ノ研究ニ付勉励セラレ且ツ政府ヨリ命セラレ
タル任務ヲ充分ニ滿サレタル事ヲ證明スルハ當砲兵
工場長ノ大ニ喜ブ所ナリ
殊ニ同技術學生ハ我工場内ニ最良ノ記念ヲ遺サ
レタリ我各員ハ同氏カ滞在中日々工場ニ於テ親密ナ
ル友誼ヲ記憶セラレンヿヲ切望ス

砲兵工場長　ロージエー
砲兵部長　カヲーヱ

仝　廿六年　十二月十九日

一任海軍少技士

内閣

今　日

一補海軍造兵廠製造科主幹　海軍省

今廿七年二月廿八日

一叙正八位　宮内省

今　七月廿五日

一清國ト開戰

今廿八年二月廿七日

一賜一級俸　海軍省

今　七月一日

一兼補海軍技術會議議員　今

九月十一日

一臨時技術教育取調委員ヲ命ス　今

十月十八日

一廿七八年ノ役従軍記章授與　賞勲局

今　十二月廿六日

一叙勲六等授單光旭日章　今

今　日

一明治廿七八年戰役ノ功ニ依リ勲六等單光旭日章及金二百円ヲ授ケ賜フ

今廿九年二月五日

一免本職並兼職補吳假設兵器製造所製造主幹　海軍省

今　日

一臨時技術會教育取調委員ヲ免ス　今

今　四月一日

一勅令第三九号海軍武官々階改正

今　日

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一任海軍造兵少技士　内閣

仝　日　一補假吳兵器製造所製造主幹　海軍省

仝　三月廿六日　一勅令第六十四號假吳兵器製造所條例制定　冒一日施行

仝　三十年三月三十日　一假吳兵器製造所創立ニ際シ格別勉励ニ付爲慰勞金貳百圓賞與ス　仝

仝　五月廿五日　一勅令第百五十号海軍造兵廠條例制定、假吳兵器製造所條例廢止

仝　日　一補吳海軍造兵廠製造科主幹　仝

海軍

仝　十二月一日　一任海軍造兵中技士　内閣

仝　廿七日　一任海軍造兵大技士　仝

仝　三十一年三月十九日　一免本職補造兵監督官　海軍省

仝　日　一英國出張被仰付　内閣

仝　廿一日　一敍正七位　宮内省

仝　三十二年八月十六日　一賜二級俸　海軍省

仝　三十三年十月一日

一歸朝被仰付　十二月十二日敕朝　内閣

仝　三十三年十二月十九日

一免本職補吳海軍造兵廠製造科主幹　海軍省

仝　三十四年十月一日　仝

一賜一級俸

仝　三十五年二月六日

一兼任東京帝國大學工科大學教授　内閣

敍高等官六等

仝　日

一造兵學第二講座分擔ヲ命ス　文部省

仝　十月廿五日

一兼補海軍技術會議々員　海軍省

仝　日

海軍

一明治卅一年勅令第三百四十四號學位令第二條ニ依リ茲ニ工學博士ノ學位ヲ授ク　文部省

履歴書

埼玉縣平民
海軍技師 中島正賢（明治元年十月一日生）

一右者本校機械部機械科課程ヲ履修シ成規ノ試業ヲ完了セリ因テ茲ニ其卒業ヲ證ス　東京專業學校
　　年九月廿九日

一傭　申付但月給金貳拾五圓　鐵道廳
　　日

一輕井澤直江津間線路從事ヲ命ス　仝
　　廿四年八月三日

一依願解傭　仝
　　十月十一日

一海軍技手見習ヲ命ス　海軍省
　　廿四年十月十二日

一月俸貳拾五圓ヲ給ス　仝
　　日

一海軍造兵廠勤務ヲ命ス　仝
　　年十月十三日

一檢査科屬員ヲ命ス　造兵廠
　　年十月十九日

一檢定係ヲ命ス　仝
　　年十一月九日

一任海軍技手　海軍省
　　日

一給七級俸　仝

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同　一海軍造兵廠勤務ヲ命ス　同日

同　年十月十日　一検査科屬員検定係ヲ命ス　造兵廠

同　廿七年二月二日　一海軍造兵廠勤務ヲ免シ造兵監督助手ヲ命ス　海軍省

同　年二月十七日　一英國ヘ出張ヲ命ス　同

同　廿八年七月廿六日　一給六級俸　同

同　年十二月廿日　一勲八等授瑞宝章　賞勲局

同　日

一明治廿七八年戦役ノ功ニ依リ勲八等瑞宝章及金五拾圓ヲ授ケ賜フ　賞勲局

同　三十年六月一日　一給五級俸　海軍省

同　三十一年一月十日　一皈朝ヲ命ス　同

同　年六月三日　五月十九日皈朝

同　一造兵監督助手ヲ免シ海軍造兵廠附ヲ命ス　同

同　年九月二日　一任海軍技師　内閣

同　一叙高等官八等　同

同　日

一賜十二級俸　海軍省
仝　日
一呉海軍造兵廠製造科主幹検査科主幹兼務被仰付　仝
仝　年十月十日
一敍正八位　宮内省
仝三十二年四月廿五日
一兼補造兵監督官　海軍省
仝　日
一歐米各國出張被仰付　内閣
仝　年九月三十日
一賜十二級俸　仝海軍省
仝　年十月九日

一陞敍高等官七等
仝三十二年十月廿日
一敍從七位　宮内省
仝　年十月十日
一製鋼事業ニ関シ格別勉励ニ付金六拾圓ヲ賞奬ス　海軍省
仝　年十月廿七日
一敍勳七等授瑞宝章　賞勳局
仝廿三年一月廿三日
一敢朝被仰付　内閣
仝　年四月十日
一免兼造兵監督官　海軍省
仝廿四年三月廿日

一賜十級俸　海軍省
仝　年十二月廿七日
一陞叙高等官六等　内閣
仝　年十二月廿八日
一叙勲六等授瑞宝章　賞勲局
仝　月
一明治三十三年清國事変ニ於ケル功ニ依リ勲六等瑞宝章
及金百七拾五圓ヲ授ケ賜フ　仝
仝　廿五年三月廿一日
一叙正七位　宮内省
仝　年四月廿三日
一賜九級俸　海軍省

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

履歴書

東京府平民
海軍技師 正七位 長谷部小三郎
明治二年八月廿日生

明治廿三年七月　東京工業學校機械科正科全科卒業
第三号證書ヲ得ル
八月　石脳商會製造所機械設計ノ事ヲ
委任セラル
仝廿四年六月　仝商會ヲ退リ
仝廿三年十二月日　一等志願兵トシテ第一師團歩兵第三聯
隊第十一中隊ニ入隊
仝廿四年十二月日　豫備役ニ編入セラル
仝廿五年一月廿五日　海軍造兵廠特撰二日給金八拾錢ニ雇入
三月廿日　海軍技手見習ヲ命ス　海軍省
仝　日　月俸貳拾五圓ヲ給ス　仝
仝　日　海軍造兵廠勤務ヲ命ス　造兵廠
四月　検査科属員ヲ命ス　仝
七月六日　服着許可　仝
七月　陸軍出勤ヲ命ス　仝
仝廿五年十月廿日　任海軍技手　海軍省
仝　日　俸七級俸　仝
仝　日　海軍造兵廠勤務ヲ命ス　仝
仝廿七年十二月廿日　海軍造兵廠附ヲ免ス　仝
仝　日　造兵科修業ヲトシテ英國留學ヲ命ス　仝
仝　日　英國留學中三等學資ヲ給ス　仝

青一日　英國ヘ出張廿八年一月十四日英國ヘ到着　海軍省
今廿八年四月一日自今二等學資ヲ給ス　賞勳局
青七日　明治廿七八年ノ役從軍記章授與
青廿日　明治廿七八年戰役ノ功ニ依リ金四拾圓ヲ賜フ
今廿九年二月廿日　給二級俸　今
十月廿日　英國留學ヲ免シ造兵監督助手ヲ命ス　海軍省
今廿一日　英國ヘ出張ヲ命ス　今
今廿年一月十九日　皈朝ヲ命ス　今
五月廿日　給五級俸　今
青十九日　皈朝
青三日　造兵廠附ヲ命ス　監督助手ヲ免シ海軍造兵　今
九月二日　任海軍技師　内閣
今日　敍高等官八等　今
今日　賜十二級俸　海軍省
今日　吳海軍造兵廠製造科主幹被仰付　今
十月十日　敍正八位　宮内省
今三十二年九月廿日　賜十一級俸
十月九日　陞敍高等官七等　海軍省
十月二日　敍從七位　内閣
十月十日　製鋼事業ニ関シ格別勉勵ニ付金六拾圓ヲ賞與ス　宮内省
今三年二月廿日　英國出張被仰付　海軍省
今日　兼補造兵監督官　内閣
青廿日　皈朝被仰付　海軍省　内閣

107

海軍省

同　内閣
同　宮内省
海軍省

同　三年三月廿日　賜拾級俸
四月十六日　免兼職
十月廿七日　陞叙高等官六等
同五年三月廿一日　叙正七位
四月廿三日　賜九級俸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

履歴書

神奈川縣平民
海軍技手 辻 茂吉
文久元年十二月十五日生

明治八年九月十日 東京海軍赤羽工作分局機工トシテ入業
仝廿一年二月廿五日 伍長被申付
仝廿六年八月廿日 組長被申付
仝廿八年四月一日 英國派遣被命アームストロング社ニ於テ修業得業証ヲ得タリ
仝廿九年三月廿八日 明治廿七八年戦役ノ功ニ依リ金叁拾五圓ヲ賜フ 賞勲局
仝廿年七月三日 呉海軍造兵廠機工トシテ入業
仝廿一年三月四日 任海軍技手 海軍省
仝日 給六級俸 仝
仝日 呉海軍造兵廠附ヲ命ス 仝
青一日勅令第三百拾号判任官俸給令中改正
仝日 七級俸
十二月廿日 給六級俸 仝
仝廿三年三月廿七日 給五級俸 仝
仝廿四年九月廿日 給四級俸 海軍省

109

履歴書

東京府平民
海軍技手勲八等大草鑑之助
（弘化元年庚申七月九日生）

明治九年十月廿日　東京海軍赤羽工作分局ニ入業
仝　十四年五月廿日　伍長被申付
仝　廿六年八月廿一日　組長被申付
仝　廿七年七月廿三日　根據地派遣ヲ命セラル
仝　廿五日　兵器工作船品川丸乗組ヲ命セラレ戦役中兵器ノ修理ニ従事シ仝廿八年三月廿九日歸廠
仝　廿八年四月一日　英國派遣被命アームストロング社ニ於テ修業得業證ヲ得タリ
仝　廿九年三月廿八日　廿七八年戦役ノ功ニ依リ勲八等瑞寶章及金五拾圓ヲ授ケ賜フ
仝　三十年七月三日　吳海軍造兵廠機工トシテ入業　賞勲局
仝　三十一年三月四日　任海軍技手　海軍省
仝　日　給六級俸　仝
仝　日　吳海軍造兵廠附ヲ命ス　仝
十月一日　勅令第三百十号判任官俸給令中改正
仝　日　七級俸
十月廿日　給六級俸　仝
仝　三十三年三月廿八日　給五級俸　仝
仝　三十四年九月廿日　給四級俸　仝
十月廿八日　明治三十三年清國事変ニ於ケル功ニ依リ

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

金五拾圓ヲ賜フ

海軍

賞勲局

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

履歴書

廣島縣平民

海軍技手 茂住清次郎

安政五年四月十一日生

明治五年六月十日　横須賀造船所鋳造工場ニ入業

仝　九年十月　拾ヶ年期ニシテ定雇職工差許候事　横須賀造船所

仝十九年九月三十日　滿期ニ付海軍工夫ヲ免除ス　仝

仝　廿六年四月十三日　依願除名

仝　廿七年十月八日　海軍生徒奉廚入業

仝　廿八年三月　生徒兵術修業ノ為英国出張ヲ命ス

一　傳習年限ハ往復日數ヲ除キ凡二ヶ年トス

一　入業ノ場所ハ在英國生徒監督庁ノ指定スル所ニ從ヒ同庁ノ監督ヲ受ケ右ノ事ヲ研究スベシ

大砲々架揮丸ノ製造ニシテ其材料鋼鐵製ニ係ル諸鋳造物ノ鋳造方法及鋳型ノ製法ヲ研究スルコト

一　入業ノ上ハ監督助手ノ指揮ヲ受クベシ

海軍生徒廚

自二十八年六月十七日
至三十年三月廿六日　英國新城府「アームストロング」会社製鋼所ニ於テ鋼鐵製ニ係ル諸鋳造物ノ鋳造方法鋳型製法修業免状ヲ授与セラル

仝　三十年五月廿日　帰朝

七月三日　呉海軍生徒廚入業

仝　日　製鋼工兼鋳工組長ヲ命ス　呉造兵廚

十月一日　第一期定期職工ニ採用ス　仝

仝　三十一年十月一日　任海軍技手　海軍省

海軍

112

今日　給六級俸
仝　日　其海軍生兵廠附ヲ命ス
十月一日　判任官俸俸　参改正
仝　月　七級俸
十月廿日　仝六級俸
仝三十三年三月廿八日　仝五級俸
仝三十四年十二月廿日　仝四級俸
仝廿八日　明治三十三年清國騒乱ノ功ニ依リ金五拾
圓ヲ賜フ　賞勲局

海軍

履歴書

宮崎縣士族
海軍技手　富田群大郎
慶應三年七月十七日生

明治十七年八月四日海軍兵器製造所製鋼工ニ入業
仝　二十四年三月廿日依願解雇
仝　二十七年八月十八日海軍造兵廠ニ入業
日清戰役中各種鋼鐵榴彈地金製鋼ニ從事ス
仝　二十八年三月
造兵術修業ノ為英国出張ヲ命ス
一傳習年限ハ往復日數ヲ除キ凡ソ二ヶ年トス
一工業ノ如キハ在英造兵廠ノ指定スル所ニ從ヒ同官ノ指揮ヲ受ケ工業ヲ研究スル事
一工業ノ上ハ兵學助手ノ指揮ヲ受ケシ

海軍造兵廠

自二十八年六月十七日
至三十年三月二十六日　英国新城府アームストロング会社製鋼所ニ於テ同ノメルス式製鋼炉ニ就キ鋼鉄ノ製煉及鋼鈑内部ノ構造ニ及ヒ修理ノ方法ヲ研究スル事

仝　三十九年三月廿八日　法修業ノ為メ免状ヲ授ケラレタリ
仝　三十年　五月三日　明治三十八年戰役ノ功ニ依リ金壹拾五円ヲ賜フ

海軍

壹　惠　扇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七月三日　呉海軍造兵廠入業
製鋼工組長ヲ命ス　　呉造兵廠

仝　三十年六月一日　第一期海軍定期職工ニ採用ス　仝　海軍省
仝　十月一日　任海軍技手
　　給六級俸　　仝
　　呉海軍造兵廠附ヲ命ス　仝

十月一日　判任官俸給令改正
　　七級俸　　仝
十月廿日　給六級俸　　仝
仝　三十三年三月廿日　給五級俸　　仝
仝　三十四年十月廿日　給四級俸　　仝
仝　十月廿日　明治三十二年以降戦役ニ於ケル功績ニ依リ金
　　五拾円ヲ賜フ　　賞勲局

海軍

115

履歴書

静岡縣平民
海軍技手　道家榮次郎
万延元年四月十三日生

明治十五年七月十四日　横須賀海軍造船所錬鐵工入業
今　二十年七月　依願解雇
十月廿八日　東京海軍兵器製造所製鋼工ニ入業
明治廿七年　今廿八年中日清戰役中ハ重ニ重輕四十七ミリ鋼鐵榴彈及
拾貳拇鋼鐵榴彈鍛錬ニ從事
明治廿八年　三月　造兵術修業ノ爲メ英國出張ヲ命セラル
一傳習ノ期限ハ往復日數ヲ除キ凡ソ二ヶ年トス
一入業ノ場所ハ在英國造兵監督官ノ指定シタル
處ニ從ヒ今官ノ監督ヲ受ケ左ノ工事ヲ研究ス
ヘシ
鋼材ヲ以テ作ル大砲彈丸ノ淬硬法及燒鈍法
並ニ大砲ノ層成收縮工事ヲ研究スル事
一入業ノ上ハ監督助手ノ指揮ヲ受クベシ
海軍造兵廠

自明治廿八年六月十七日至今廿九年八月十二日
自今三十年一月四日至今年三月廿三日　英國新城府「アームストロング」會
社製鋼所ニ於テ鋼材水壓器鍛錬法修
業　免狀ヲ授與セラル
今　廿九年　三月廿八日　明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ金貳拾円ヲ
賜フ
自今廿九年八月十三日　英國「セヒ井ルド」市「フハーヒス」社ニ於テ微
至今　年十二月卅一日　甲彈鍛錬法、燒鈍法及淬硬法修
貴勲局

業免狀授與

今三十年 五月廿日 歸朝

今 七月三日 吳海軍造兵廠入業

十月一日 第一期海軍定期職工ニ採用ス 吳海軍造兵廠

今三十一年 十月一日 任海軍技手 海軍省

今 日 給六級俸 今

今 日 吳海軍造兵廠附ヲ命ス 今

十月一日 勅令第三百十号判任官俸給令中改正

今 日 七級俸 今

十二月廿日 給六級俸 今

今三十三年三月廿八日 給五級俸 今

今三十四年十二月廿一日 給四級俸

今 廿八日 明治三十三年清國事変ニ於ケル功ニ

依リ金五十円ヲ賜フ

海軍

賞勲局